

祈りによって祈る 3

私たちは今「祈る方法」に取り組んでいます。教会で初めてキリスト教の祈りについて見聞きしたときから現在まで、私たちはあまり祈り方や、「祈りの方法」について、教えられた事がなかったかもしれません。自分の尊敬するクリスチャンの祈り方を聞いて、真似して来た方が多いと思われます。しかしこの「A C T S」を頭に置いて祈るようになると、自分の堂々巡りの祈りが整理されて来て、自然に神様との関係が深められ、神様が喜んで聞いて下さり、必ず応えて頂けるという確信が持てるようになります。

このように祈るとき、全能の神様が自分を愛して、自分の考え以上の最善を成して下さると思えて、自分で抱えている事を、神様にお願いし、おゆだねし、渡してしまうことができます。重荷が消え、思い煩いから解放され、安心と平安に包まれるようになります。

—祈りの順序「A C T S」—

1 崇めること (Adoration), **2 告白** (Confession), **3 感謝** (Thanksgiving), **4 嘆願** (Supplication)

聖書の学び

I、3 嘆 願 (Supplication)

—助けを求め、お願いすること—

1、嘆願することは、助けて頂きたいこと、お願いしたいことを心で思っているだけでなく、その強い思いを口に出し、主にお願いすることです。ルカ18章35～43節を読みましょう。

①ここにはどのような光景が描かれていますか？

②目の不自由なバルテマイ(マルコ10:46) は主イエス様が通られるのを知って、どうしましたか？ 何と叫んでいましたか？ (ルカ18:38)

③大声で叫ぶ彼を黙らせようとしたましたが、彼はどうしましたか？ (ルカ18:39)
彼の心にはどのような思いがあったのでしょうか。想像してみましょう。

④主イエス様はどうされましたか？ (ルカ18:40)

2、神である憐れみ深い主イエス様は、必死にお願いするバルテマイに何とお尋ねになりましたか？(ルカ18:41)

3、主イエス様が言われた「あなたの信仰があなたを救いました」にある、彼の信仰はどこに現れているのでしょうか？

※バルテマイの何が良かったと思いますか？「A C T S」に当てはめてみましょう。

- ・主イエス様と知って叫んで、止めな^やかったこと
- ・ダビデの子よ！――→
- ・私を哀れんで下さい――→
- ・目が見えるようにして下さい――→
- ・癒され、イエスについて行った――→

Ⅱ、神様に打ち明ける (ピリピ4:6)

1、全能者である神様に、私たちが思い煩わないで嘆願(願いごと)できる霊的な順序があります。どのようなことでしょうか？

- ①罪の赦し…
- ②新生…
- ③きよめ…

2、自分の願いを4つに分けることができます。(教会員として)

- ①「伝道について」――→
- ②「人間関係について」――→
- ③「家族のこと」――→
- ④「自分自身」――→

— 紙に書き出す方法 —

白紙に平行線を3本引き、4つの部分に分ける。

- ・最初の部分に「崇めること(A)」と書き、神様を崇めることの内容を書きます。

(今の自分にとって、印象的は神様のご性質について列挙して下さい。)

- ・第2の部分に「告白(C)」と書き、自分の心にのしかかっている罪を具体的に書いて下さい。(十字架により赦されたと確信したら、この紙は破って捨てても良いと思います。)
- ・第3の部分に「感謝(T)」と書き、自分が感謝している神様から頂いた祝福を列挙します。
- ・第4の部分に「嘆願(S)」と書き、どんなことでも自分の願いを書きましょう

「崇めること(A)」

「告白(C)」

「感謝(T)」

「嘆願(S)」